

# 見たこと、聞いたこと、歩いた道

## 第8回 東京 乗り鉄今昔物語



**松本誠司**

まつもと せいし／1968年、高知県生まれ。全障研高知支部。「障害者の生活と権利を守る高知県連絡協議会」事務局長を務め障害者運動の先頭に立ち続ける。趣味は観劇にスポーツ観戦。それからグルメも。

社会人になって東京に行つたのは、クリーニング店を辞めてから、全国肢障協の総会への参加だつたと思います。故渡辺千種さんと田村隆彦さんと3人で行きました。会議や交渉のことについては記憶がないのですが夜、新宿の歌声喫茶「ともしひ」に行ったことを覚えています。このときは私は杖歩行、お2人が車椅子だったので、リフト車で移動したと思います。

その後、全障研や障全協、きょうされんなどの会議で頻繁に東京に行くことになりました。はじめのころは、山手線しか

知りませんでした。駅から会場まで距離もわからずにタクシーに乗り、高い料金を払ったこともあります。しかし、山手線は一周60分なので、時間つぶしには安上がりでした。当時はどの駅にもエレベーターはなく、駅に入つてから券売機で乗車券を買い、改札を抜けて、ホームまで歩いて行くのにずいぶん時間がかかっていました。SincやPASMができると、券売機に行かずに改札へ行けるようになりました。

実は、高知で暮らしていると理解に苦しむことがあります。それはライバル会社の線路に「相互乗り入れ」することです。例えば羽田空港で乗車するといくつかの会社の線路を乗り継いで成田空港に行けるのであります。途中下車は御法度なのです。

昔、通つた東京駅の地下にあつた「赤煉瓦の地下通路」は大地下都市に変わっています。そこで地下に移動するようになりました。駅がバリアフリー化され、電動車椅子を利用するようになり、移動が思い通りになつて乗り鉄に火がつきました。電車で小さな旅に出るという新しい楽しみを手に入れました。しかし、残念なこともあります。杖歩行で山手線で時間潰しをしていたころは、車窓から気に入るモノを見つけると、次の駅で降りて現地に行くことができていよいになると、行動範囲を大きく広げることができました。そのころ（2000年前後）からバリアフリーが進み、多くの駅にエレベーターが設置されるようになりました。

うやつて地下に入れているか理解できるようになりました。駅がバリアフリー化され、電動車椅子を利用するようになり、移動が思い通りになつて乗り鉄に火がつきました。電車で小さな旅に出るという新しい楽しみを手に入れました。しかし、残念なこともあります。杖歩行で山手線で時間潰しをしていたころは、車窓から気に入るモノを見つけると、次の駅で降りて現地に行くことができていよいになると、行動範囲を大きく広げることができました。そのころ（2000年前後）からバリアフリーが進み、多くの駅にエレベーターが設置されるようになりました。